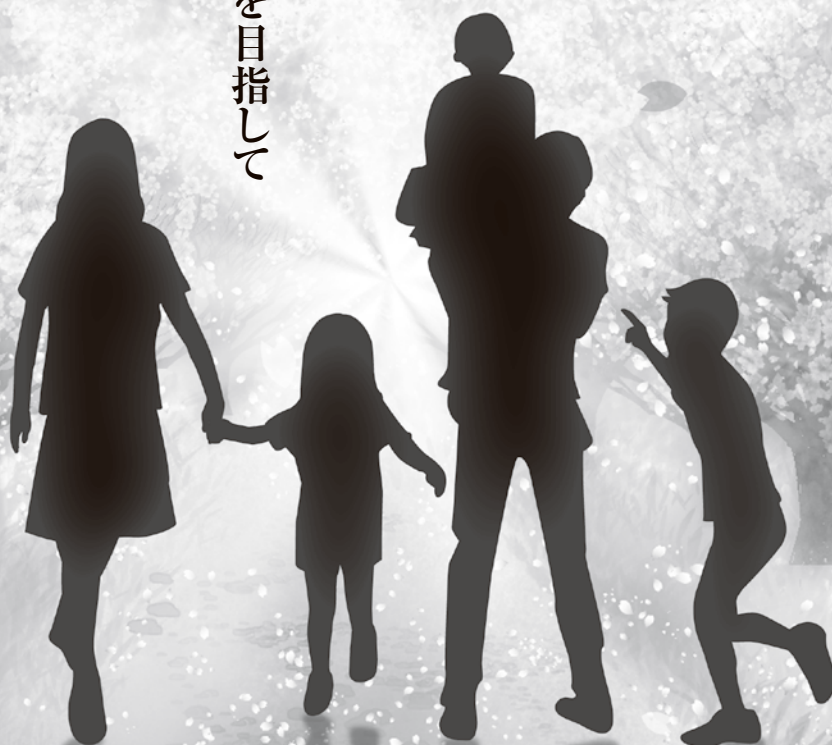


中能登町まち・ひと・しごとと創生総合戦略 中能登町人口ビジョン

出生率日本の
まちづくりを目指して



中能登町

中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略

中能登町人口ビジョン

目 次

中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略

1. 総合戦略の基本的な考え方	8
1-1. 総合戦略策定の趣旨	8
1-2. 総合戦略の位置付け	9
1-3. 総合戦略の概要	10
(1) まちづくりのコンセプト	10
(2) 基本目標	10
(3) 計画期間	10
(4) 推進体制	10
(5) 取り組みと検証	10
1-4. 総合戦略の体系図	11
2. 基本的方向と具体的な施策	13
【目標1】しごとづくり「中能登町における安定した雇用を創出する」	13
(1) 基本的方向と数値目標	13
(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）	13
① 企業誘致施策	13
② 創業支援施策	14
③ 繊維産業活性化施策	14
④ 農業の新規就農者・担い手確保・育成施策	14
⑤ 特色ある農業産物の産地化推進施策	15
⑥ 行政機能民営化施策	15
⑦ 有害鳥獣対策事業施策	16
【目標2】ひとづくり「中能登町への新しいひとの流れをつくる」	17
(1) 基本的方向と数値目標	17
(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）	17
① U I J ターン者応援補助施策	17
② 宅地造成施策	18
③ 町営住宅整備施策	18
④ 鹿西高校魅力向上支援施策	18
⑤ ファッションのまちづくり施策	19
⑥ プロモーション施策	19

【目標 3】子育て環境づくり「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」	20
.....
(1) 基本的方向と数値目標.....	20
(2) 具体的な施策と重要業績評価指標 (K P I)	20
① 結婚推進施策.....	20
② 妊娠・出産・育児までの支援施策.....	21
③ 定住促進施策.....	22
④ 教育環境整備施策.....	22
⑤ 地域公共交通の利用促進施策.....	23
【目標 4】地域づくり「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」	24
.....
(1) 基本的方向と数値目標.....	24
(2) 具体的な施策と重要業績評価指標 (K P I)	24
① 町並み保存と古民家の利活用施策.....	24
② 既存施設のマネジメント推進施策.....	25
③ 観光推進施策.....	25
④ 空き家対策施策.....	26
⑤ 住環境整備施策.....	26
⑥ 地域福祉推進施策.....	27
⑦ 歴史・文化整備施策.....	28
【横断的プロジェクト】「基本目標の達成に向けて横断的に取り組む」	29
.....
(1) ファッションのまちづくり施策 「繊維でみんなが動き出せるサイクルを作る事業」	29
(2) 観光交流のまちづくり施策 「人にやさしい観光交流のまちづくり事業」	30

中能登町人口ビジョン

1. 人口動向分析.....	32
1-1 時系列による人口動向分析.....	32
(1) 総人口の推移と将来推計.....	32
(2) 年齢3区分別人口の推移.....	33
(3) 旧町地区別総人口の推移.....	34
(4) 出生・死亡、転入・転出の推移.....	35
(5) 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響.....	36
(6) 年齢階級別の人口移動の状況.....	37
(7) 転入・転出の状況.....	38
(8) 性別・5歳階級別転入・転出の状況.....	39
(9) 地域別純移動の状況.....	42
1-2 年齢階級別の人口変化分析.....	43
(1) 性別・年齢階級別の人口変化の状況.....	43
(2) 性別・年齢階級別の人口変化の長期的動向.....	44
1-3 出生に関する分析.....	45
1-4 雇用や就労等に関する分析.....	46
(1) 産業別就業者人口の状況.....	46
(2) 男女別産業人口の状況.....	47
(3) 年齢階級別産業人口の状況.....	48
(4) 地域の産業・雇用創造チャートー統計で見る稼ぐ力と雇用力ー.....	49
2. 将来人口推計.....	52
2-1 将来人口推計.....	52
(1) パターン1（社人研推計準拠）とパターン2（日本創生会議推計準拠）の総人口の比較... ..	52
(2) 人口減少段階の分析.....	53
2-2 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析.....	54
(1) 自然増減・社会増減の影響度の分析.....	54
(2) 人口の年齢構成の分析.....	55
(3) 老年人口比率の変化.....	56
2-3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析.....	57
(1) 人口減少による影響.....	57
(2) 高齢化の影響.....	60

3. 人口の将来展望	62
3-1. 現状と課題の整理	62
(1) 人口減少と高齢化.....	62
(2) 出生数の減少と死亡数の増加.....	62
(3) 社会増加傾向.....	62
(4) 第2次産業における就業者の減少.....	62
(5) 将来人口の減少.....	62
3-2. 将来展望の基礎となる町民意識	63
(1) アンケート調査概要.....	63
(2) 町民意識.....	64
3-3. 目指すべき将来の方向	70
3-4. 人口の将来展望	71
(1) 将来展望の考え方.....	71
(2) 総人口の見通し.....	71
(3) 年齢三区分別人口と人口ピラミッド.....	72

中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略

1. 総合戦略の基本的な考え方

1-1. 総合戦略策定の趣旨

人口減少社会に的確に対応して人口の減少に歯止めをかけるため、平成 26（2014）年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的として掲げています。

これを踏まえ、国においては、平成 26 年 12 月 27 日に人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をそれぞれ閣議決定しました。

まち・ひと・しごと創生法第 10 条では、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するよう努めることとされています。このため、地方自治体においては、国の長期ビジョンと総合戦略を勘案しつつ、各地域における人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定することが求められています。

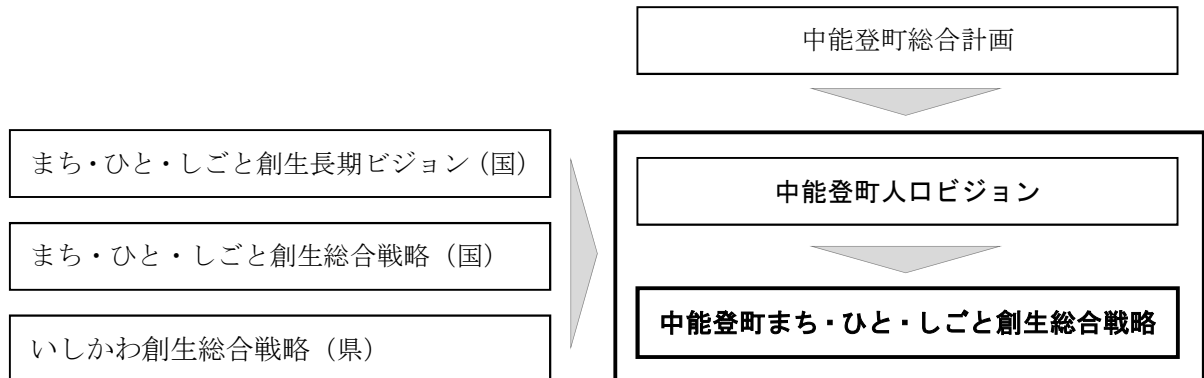
本町では、上記を踏まえ、中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」といいます。）を策定します。総合戦略は、国の地方創生に係る基本的な考え方や政策原則、中能登町人口ビジョンで提示した現状、将来展望を踏まえながら、本町が将来にわたって活力ある地域社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた基本目標、施策の基本的な方向性、具体的な施策と取り組む事業についてとりまとめたものです。

なお、本町の総合計画（目標年：平成 27 年度）は「ふるさと ふれあい 心を育む 中能登町」を基本理念として、町民が安心して、健やかで生きがいを感じ楽しく暮らせる地域環境づくり、夢と希望をもって安心して働ける就業の場づくりを将来目標としています。

総合戦略では、この総合計画の基本理念を引き継ぎ、将来にわたってある一定規模の人口を維持し、活力ある中能登町の実現に全力で取り組んでいくものであります。

1-2. 総合戦略の位置付け

中能登町の総合戦略は、国の長期ビジョン及び総合戦略の基本的な考え方を前提にしながら、いしかわ創生総合戦略、中能登町人口ビジョンを勘案し、策定します。



なお、国の長期ビジョン及び総合戦略の基本的な考え方は以下のとおりです。

■経済の好循環が地方において実現しなければ、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）に陥るリスクが高いとし、そうならないよう長期ビジョンの基本的視点から人口・経済・地域社会の課題に対して一体的に取り組む必要があるとされています。

【国の長期ビジョンにおける今後の基本的視点】

- ① 「東京一極集中」を是正する
- ② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する
- ③ 地域の特性に即した地域課題を解決する

■地方に、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たな人の流れを生み出すこと、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子供を産み育てられる社会環境をつくり出すことが重要であるとし、4つの基本目標を設定し、課題に取り組んでいくこととされています。

【国の総合戦略の4つの基本目標】

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

■政策の企画・実行にあたっての基本方針として、「まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則」に基づき、関連する施策を展開することとされています。

【まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則】

- ① 自立性…構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につなげる
- ② 将来性…地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する
- ③ 地域性…地域の実態に合った施策を支援する。国は支援の受け手側の視点に立ち支援する
- ④ 直接性…最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する
- ⑤ 結果重視…PDCAメカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と必要な改善等実施

1-3. 総合戦略の概要

(1) まちづくりのコンセプト

地域の産業を活性化し、老若男女を問わずすべての町民がいきいきと暮らし活躍できるまち

(2) 基本目標

コンセプト実現のため、4つの基本的な方向性を総合戦略の基本目標として定めます。
また、基本目標を達成するために横断的に取り組むプロジェクトを設定します。

目標1 しごとづくり

「中能登町における安定した雇用を創出する」

目標2 ひとづくり

「中能登町への新しいひとの流れをつくる」

目標3 子育て環境づくり

「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

目標4 地域づくり

「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

横断的プロジェクト

「基本目標の達成に向けて横断的に取り組む」

(3) 計画期間

平成27(2015)年度を初年度とする平成31(2019)年度までの5か年を計画期間とします。

(4) 推進体制

以下の組織を中心に、策定及び推進を行います。

- ・中能登町まち・ひと・しごと創生本部（平成27年3月設置）

会長：杉本栄蔵中能登町長

- ・中能登町まち・ひと・しごと創生有識者会議（平成27年11月設置）

産官学金労からなる幅広い有識者18名を委員として構成

会長：古澤久良 丸井織物(株)常務取締役

(5) 取り組みと検証

「中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実施にあたっては、年度ごとに取り組み内容を評価・検証し、改善する仕組み（PDCAサイクル^注）を確立する。

注) PDCAサイクルとは、事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）の4段階を繰り返すことにより、業務を継続的に改善する。

1-4. 総合戦略の体系図

中能登町人口ビジョン
<p>人口の動向分析</p> <p>人口のトレンドは… 今後 30 年間に人口が 4,734 人減少するとの予測 2010 年 18,535 人 2040 年 13,801 人 (社人研推計)</p> <p>人口減少の理由は… ・出生率が、人口を維持するために必要な 2.07 を下回っている (2010 年 1.72 : 県内一) ※2005 年 1.58 人 (5 年で+0.14) ・転出超過と低調な U I J ターン</p> <p>人口減少の原因は… ・基盤産業 (繊維、農業) の弱体化 ・町外進学後に戻ってこない ・子育て環境がまだまだ十分でない ・多様なライフスタイルに適していない</p>
<p>人口の将来展望</p> <p>人口問題への対策は… 人口減少の悪循環を断ち切り好循環させるための取り組みを目指す。 ・基盤産業を中心に多様で魅力あるしごとづくり ・若者世代の U I J ターン ・出生率日本一のまちづくり (2060 年 2.8) ※アンケートによる希望出生率は 1.96 人 ・空き家や低未利用公共施設の活用などによる住居スペース、コワーキングスペース、サテライトオフィススペースの確保・提供</p> <p>将来人口の目標は… 社会動態ゼロの実現と出生率日本一の達成により 2010 年 18,535 人に対して、2040 年以降 15,000 人をキープする。</p>

<p>中能登町総合計画における「まちづくりの基本理念」 「ふるさと ふれあい 心を育む 中能登町」 町民が安心して、健やかで生きがいを感じ楽しく暮らせる地域環境をつくり、夢と希望を持って安心して働ける就業の場づくりを目指す。</p>	<p>「まちづくりの5つの将来像」 1 「にぎわいと活力あるまちづくり」 2 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」 3 「地域の風土を生かしたまちづくり」 4 「強い絆を育むまちづくり」 5 「学びを支えるまちづくり」</p>
---	---

<p>コンセプト「地域の産業を活性化し、老若男女を問わずすべての町民がいきいきと暮らし活躍できるまち」 総合戦略 (平成 27 ~ 31 年度の 5 年間)</p>	<p>基本目標 (成果指標、2020 年)</p> <p>【目標1】 しごとづくり 中能登町における安定した雇用を創出する 【基本目標】 ○製造品出荷額等 350 億円 ○基盤産業従業者数 1,500 人 ○創業数 50 件</p>	<p>主な施策</p> <p>① 企業誘致事業 ② 創業支援事業 ③ 繊維産業活性化事業 ④ 農業の新規就農者・担い手確保・育成事業 ⑤ 特色ある農業産物の産地化推進事業 ⑥ 行政機能民営化事業 ⑦ 有害鳥獣対策事業</p>	<p>主な重要業績評価指標 (KPI)</p> <p>①平成 31 年度までに 2 件 ②創業数 年間 10 件 ③見本市等の出点数 5 件 ④農業の担い手: 6 経営体増、新規就農者: 5 人増 ⑤園芸品目売上 1,000 万円増 ⑥民営化 2 事業 ⑦被害額 100 万円以下</p>
	<p>【目標2】 ひとつづくり 中能登町への新しいひとの流れをつくる 【基本目標】 ○転入者数 (日本人移動者) 300 人 ○体験交流ツアー参加数 20 人 ○中高生が進学後に町に戻ってきたい割合 50.0%</p>	<p>① U I J ターン者応援事業 ② 宅地造成事業 ③ 町営住宅整備事業 ④ 鹿西高校魅力向上支援事業 ⑤ ファッションのまちづくり事業 ⑥ プロモーション事業</p>	<p>①80 人の増、地域おこし協力隊の定住者 1 名増 ②ニュータウン良川定住 40 区画の完売 ③町営住宅建設 20 戸、20 世帯の増 ④町内出身の鹿西高校進学 20 人増 ⑤ファッションショーの毎年開催 ⑥体験交流ツアーの開催 5 回</p>
	<p>【目標3】 子育て環境づくり 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 【基本目標】 ○合計特殊出生率 2.0 人 ○婚姻数 70 組 ○町民の出産・子育て環境に対する満足度 90.0%</p>	<p>① 結婚推進事業 ② 妊娠・出産・育児までの支援事業 ③ 定住促進事業 ④ 教育環境整備事業 ⑤ 地域公共交通の利用促進事業</p>	<p>①結婚推進事業による成婚 20 組 ②出生数 年間 130 人 ③定住促進奨励金 年間 50 件、三世同居助成 年間 2 件 ④小中高一般連携大家族型スポーツクラブの設立 1 件 ⑤中学生の J R ・路線バス定期券所持者 50 名増</p>
	<p>【目標4】 地域づくり 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する 【基本目標】 ○バリアフリー観光客の満足度 50.0% ○空き家バンクの成約件数 20 件 ○中能登町に住み続けたい町民の割合 95.0%</p>	<p>① 町並み保存と古民家の利活用事業 ② 既存施設のマネジメント推進事業 ③ 観光推進事業 ④ 空き家対策事業 ⑤ 住環境整備事業 ⑥ 地域福祉推進事業 ⑦ 歴史・文化整備事業</p>	<p>①古民家の活用軒数 5 軒 ②公共施設の減 ③町内の観光施設等の来訪者数 5%増 ④空き家バンクの成約件数 年間 4 件 ⑤地籍調査進捗率 20%、耐震改修工事 5 件、がけ地工事 5 件 ⑥地域福祉座談会の実施 27 地区</p>

2. 基本的方向と具体的な施策

【目標1】しごとづくり「中能登町における安定した雇用を創出する」

(1) 基本的方向と数値目標

繊維産業や農業を活性化し、外貨を稼ぐ力を高めることによって、基盤産業の雇用を維持・拡大するとともに、飲食や小売、サービス業などの創業を誘発しやすいまちを目指します。

目標1 数値目標

項目	基準値	目標値
製造品出荷額等	299億円 (平成25年)	350億円 (平成31年)
基盤産業従業者数	1,404人 (平成25年)	1,500人 (平成31年)
創業数	25件 (平成22～26年)	50件 (計画期間累計)

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 企業誘致施策

中能登町出身の若者をはじめ、多くの人々が、より良質で多様な働く場を求め、町外、県外へと流出しています。若者の流出及び人口減少の歯止めとするため、企業誘致により魅力ある雇用の場の創出を図ります。

目標1－施策① 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
企業誘致数	—	2件 (計画期間累計)

[取り組む事業]

- ・ 企業誘致事業

② 創業支援施策

中能登町内の事業者、自営業者においても高齢化が進んでおり、次の世代へ継承しない人も多く、町内における商工業の衰退が見込まれます。創業希望者を官民一体となりサポートし、町内における創業機運を高め、商工業の活性化を図ります。

目標 1－施策② 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
創業数（年間）	5 件 （平成 22～26 年平均）	10 件 （計画期間平均）

[取り組む事業]

- ・創業支援事業

③ 繊維産業活性化施策

中能登町が誇る繊維産業においても、工場閉鎖、継承者の不在など、今後の衰退が不安視されています。中能登町の良質な繊維産業を活性化し、町外、県外に誇れる中能登町繊維の復興を目指します。

目標 1－施策③ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
新商品の見本市への出点件数	—	5 件 （計画期間累計）

[取り組む事業]

- ・繊維産業活性化事業

④ 農業の新規就農者・担い手確保・育成施策

農業の担い手の高齢化に伴い、個人では続けられなくなる農家が増え、新たな中心経営母体が必要とされているため、集落営農化や法人化への転換を図ります。また、新規就農者の確保も必要となっており、意欲ある新規就農者の確保及び育成を推進します。

目標 1－施策④ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
認定農業者・農業法人設立数	80 経営体 （平成 26 年度）	86 経営体 （平成 31 年度）
新規就農者数	2 人 （平成 26 年度）	7 人 （平成 31 年度）

[取り組む事業]

- ・農業の担い手確保・育成
- ・新規就農者の確保・育成

⑤ 特色ある農業産物の産地化推進施策

道の駅「織姫の里 なかのと」で販売される農産物の栽培や量産化、またカラー野菜をはじめとした特色ある園芸品目の産地化が急務となっているため、生産者支援や生産物のブランド化を推進していきます。また、平成 26 年度に「どぶろく特区」を取得したため、今後は特定農業者による農家レストランや農家民宿の創業を進め、農業の 6 次産業化の推進及び中能登町の特産品として「どぶろく」の製造・販売を目指します。

目標 1－施策⑤ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
濁酒製造業者数	0 経営体 (平成 26 年度)	3 経営体 (平成 31 年度)
特色ある農産物の園芸品目売上（年間）	1,000 万円 (平成 26 年度)	2,000 万円 (計画期間平均)

[取り組む事業]

- ・どぶろく特区を活かしたまちづくり
- ・特色ある農産物の産地化

⑥ 行政機能民営化施策

限られた予算の中で、良質なサービスを確保するため、民間活力を導入し、行政サービスの維持・効率化を目指します。

目標 1－施策⑥ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
スクールバス（4 台）の民間委託	0 台 (平成 26 年度)	4 台 (平成 31 年度)
給食業務の民間委託	直営 (平成 26 年度)	民間委託 (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・スクールバスの民間委託
- ・給食業務の民間委託

⑦ 有害鳥獣対策事業施策

有害鳥獣による農作物等への被害を減少させるため、有害鳥獣捕獲の担い手の育成や捕獲対策の実施、防除施設の計画的な設置を推進していきます。

目標 1－施策⑦ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
有害鳥獣による農作物被害	405 万円 (平成 26 年度)	100 万円以下 (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・有害鳥獣対策

【目標2】ひとづくり「中能登町への新しいひとの流れをつくる」

(1) 基本的方向と数値目標

新たに創出される雇用の場へひとを呼び込むため、UIJ ターンしやすい環境を整え情報発信していくとともに、鹿西高校の魅力向上やファッションのまちづくりによる地元進学、地元就職の推進と転入促進を実現するまちを目指します。

目標2 数値目標

項目	基準値	目標値
転入者数（日本人移動者）	267人 (平成26年)	300人 (平成31年)
体験交流ツアー参加数（年間）	—	20人 (計画期間平均)
中高生が進学後に町に戻ってきたい割合	31.2% (平成27年度)	50.0% (平成31年度)

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① UIJ ターン者応援補助施策

中能登町出身で中能登町に戻って来たい人や中能登町への移住希望者の受け入れ態勢を整え、UIJ ターン者の創出を図るとともに地域おこし協力隊からの移住者の増加を目指します。

目標2－施策① 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
UIJ ターン者数（年間）	—	20人 (計画期間平均)
地域おこし協力隊の定住者数	—	1名 (平成31年度)

[取り組む事業]

- ・UIJ ターン者応援商品券交付事業
- ・地域おこし協力隊事業

② 宅地造成施策

分譲宅地を整備し、多様化する移住定住や UIJ ターン等に対応できるよう環境整備を目指します。

目標 2－施策② 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
ニュータウン良川（全 40 区画）の契約件数	19 区画 （平成 26 年度）	40 区画 （平成 31 年度）

[取り組む事業]

- ・宅地造成事業の推進

③ 町営住宅整備施策

町営住宅は、9 団地 154 戸整備されているが、住宅の老朽化による修繕等が増えていることに加え、定住を希望する若者のニーズの多様化が進んでいるため、安心して暮らせる住環境の整備を進めます。

目標 2－施策③ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
町営住宅建設戸数	—	20 戸 （計画期間累計）

[取り組む事業]

- ・町営住宅の新規建設

④ 鹿西高校魅力向上支援施策

中能登町出身者の町外高校への進学も多く、そのまま町外、県外で定住してしまうケースが多いため、町内唯一の鹿西高校の魅力向上を支援し、町内高校に進学し、そのまま町内へ定住するという流れの創出を図ります。

目標 2－施策④ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
町内出身者の鹿西高校進学者数	24 人 （平成 26 年度）	44 人 （平成 31 年度）

[取り組む事業]

- ・鹿西高校魅力向上支援事業

⑤ ファッションのまちづくり施策

繊維の町としての魅力に対する認知が、町内の子ども達に低いため、町内事業者の魅力ある衣料を製作してもらい、繊維産業を広く発信し、将来の就業者の確保や担い手の育成に繋げていきます。

目標 2 - 施策⑤ 重要業績評価指標 (KPI)

項目	基準値	目標値
ファッションショーの開催回数 (年間)	1回 (平成 26 年度)	1回 (計画期間平均)

[取り組む事業]

- ・ファッションのまちづくり事業

⑥ プロモーション施策

UIJ ターンや新規雇用を促進するため、出産祝金や定住促進奨励金、医療費助成、住宅助成など町の取り組みを広く周知する必要があるため、情報発信の強化やイベント活動などを行う。

目標 2 - 施策⑥ 重要業績評価指標 (KPI)

項目	基準値	目標値
体験交流ツアーの実施回数	—	5回 (計画期間累計)
ホームページのアクセス件数	年間約 240,000 件 月約 20,000 件 (平成 26 年度)	年間約 360,000 件 月約 30,000 件 (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・プロモーション事業
- ・町ホームページを活用した地域情報の発信

【目標3】子育て環境づくり「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

(1) 基本的方向と数値目標

若い世代のために、質の高い魅力的な雇用の場を確保し、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立しやすい環境）を整えるとともに、若い世代が求める結婚や出産、子育てを支える施策を官民一体で取り組めるまちを目指します。

目標3 数値目標

項目	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.72人 (平成22年)	2.0人 (平成32年)
婚姻数(年間)	64組 (平成22～26年平均)	70組 (計画期間平均)
町民の出産・子育て環境に対する満足度	82.1% (平成27年度)	90.0% (平成31年度)

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)

① 結婚推進施策

結婚の晩婚化や未婚化の流れを変えるため、婚活・結婚の支援を行い人口の増加及び出生数の増加を目指します。

目標3-施策① 重要業績評価指標(KPI)

項目	基準値	目標値
結婚推進事業による成婚数	0組 (平成26年度)	20組 (計画期間累計)

[取り組む事業]

- ・結婚推進事業

② 妊娠・出産・育児までの支援施策

若い世代が希望どおりに結婚し子どもが持てるように、結婚から子育てに至るまで切れ目のない一貫した支援の充実を進めます。

目標 3－施策② 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
給食費助成金助成人数	—	800 人 (平成 31 年度)
保育料第 2 子無料化助成人数 (所得制限有) (年間)	—	2,000 人 (計画期間平均)
保育料第 3 子以降無料化助成人数 (年間)	—	1,500 人 (計画期間平均)
病児・病後児の受け入れ環境の整備	—	病児・病後児の 受け入れ環境を 整える
出生数 (年間)	113 人 (平成 26 年)	130 人 (計画期間平均)
出産祝金申請数 (年間)	130 人 (平成 26 年度)	130 人 (計画期間平均)
乳幼児、児童及び生徒養育医療費給付の現物給付化に向けたシステム改修	—	導入 (平成 31 年度)
ひとり親家庭等医療費給付の現物給付化に向けたシステム改修	—	導入 (平成 31 年度)
能登中部小児休日当番医制度の実施	—	実施 (平成 28 年度)
不妊症の治療者の妊娠に至る人数 (年間)	一般不妊治療 1 人 (平成 26 年度) 特定不妊治療 3 人 (平成 26 年度)	一般不妊治療 3 人 (計画期間平均) 特定不妊治療 7 人 (計画期間平均)
不育症の治療者の出産に至る人数 (年間)	—	1 人 (平成 31 年度)
妊娠届出数 (年間)	120 人 (平成 26 年度)	130 人 (計画期間平均)
行政措置予防接種率	52.6% (平成 26 年度)	55% (平成 31 年度)
「男女共同参画社会」という用語の周知度	—	100% (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・給食費助成金（第2子以降）
- ・保育料第2子無料化事業（所得制限有）
- ・保育料第3子以降無料化事業
- ・病児・病後児保育事業
- ・出産祝金
- ・乳幼児、児童及び生徒養育医療費給付の現物給付化
- ・ひとり親家庭等医療費給付の現物給付化
- ・能登中部小児休日当番医制事業
- ・不妊症治療費の助成
- ・不育症治療費の助成
- ・妊婦健康診査等の支援
- ・予防接種費用の助成
- ・男女共同参画社会の推進事業

③ 定住促進施策

多様な働き方となっている子育て世代が、子どもの生活を考え短時間勤務になるなど、子どもを2人、3人と多く望めない状況もあります。親世代に、子育て援助者となってもらい、働きながら子育てがしやすい環境づくりを進めます。

目標3－施策③ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
三世代の同居・近居に対する助成件数（年間）	—	2件 (計画期間平均)
定住促進奨励金の申請件数（年間）	40件 (平成24～26年度平均)	50件 (計画期間平均)

[取り組む事業]

- ・三世代ファミリー同居・近居促進事業
- ・定住促進奨励金

④ 教育環境整備施策

多様で質の高い教育、高等教育を推進することにより、子どもの教育環境の充実を図ります。

目標3－施策④ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
教育振興基本計画の成果目標の達成	—	達成 (平成31年度)

項目	基準値	目標値
「教育の町 中能登」の実現	—	達成 (平成 31 年度)
I C T機器の更新	—	中学校タブレットパソコン 20 台、教室用パソコン・電子黒板 66 台更新 (計画期間累計)
町立保育園再編検討委員会の開催	—	開催 (平成 31 年度)
小中高一般連携大家族型スポーツクラブの設立	—	1 件 (計画期間累計)
ひとり親家庭学習支援ボランティアの利用者数	—	10 人 (平成 28 年度)

[取り組む事業]

- ・中能登町教育大綱
- ・夢プロジェクト事業
- ・時代に即した教育の実施
- ・町立保育園再編検討計画
- ・スポーツ推進連携事業
- ・ひとり親家庭学習支援ボランティア事業

⑤ 地域公共交通の利用促進施策

利用者が減少している地域公共交通の利用を推進し、交通渋滞の解消を図るとともに社会教育の向上を目指します。

目標 3 - 施策⑤ 重要業績評価指標 (K P I)

項目	基準値	目標値
中学生の J R ・路線バスの定期券所持者数	114 名 (平成 25~26 年度平均)	160 名 (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・地域公共交通の利用推進事業

【目標4】地域づくり「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

(1) 基本的方向と数値目標

中能登町の住みやすい風土や地域文化、コミュニティを育んできた町並みや古民家を後世に受け継いでいくとともに、繊維産業の現場や資料館、名所旧跡を組み合わせた新たな観光交流の仕組みづくりを行い、高齢者や身体障がい者も訪れてみたくなるまちを目指します。

目標4 数値目標

項目	基準値	目標値
バリアフリー観光客の満足度	—	50.0% (平成31年度)
空き家バンクの累計成約件数	7件 (平成22～26年度)	20件 (計画期間累計)
中能登町に住み続けたい町民の割合	91.9% (平成27年度)	95.0% (平成31年度)

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 町並み保存と古民家の利活用施策

老朽化や空家となった古民家を住まいや店舗として再生させ、新たな街の魅力として活用を進めます。

目標4－施策① 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
古民家の活用軒数	—	5軒 (計画期間累計)

[取り組む事業]

- ・古民家活用事業

② 既存施設のマネジメント推進施策

包括的な公共施設の管理を進め、安全で効率的な土地・施設の利用を図ります。

目標 4－施策② 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
旧校舎の取り壊し及び利用の確定	—	6 施設 (計画期間累計)
児童館、放課後児童クラブ統廃合	児童館 9 施設 放課後児童クラブ 5 施設 (平成 26 年度)	児童館 3 施設 放課後児童クラブ 3 施設 (平成 31 年度)
計画に基づいた施設活用及び配置計画の実施と施設削減によるコストダウン	—	コストダウン (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・旧校舎の利活用
- ・学童・児童館の統廃合
- ・公共施設利活用事業

③ 観光推進施策

中能登町へのわかりやすい誘導や案内看板の統一化を進め、交流人口の拡大及び誘客による経済効果の増加を図ります。また、障がい者にもやさしいバリアフリー観光を推進します。

目標 4－施策③ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
観光施設等の来訪者数	254,317 人 (平成 22～26 年平均)	267,000 人 (平成 31 年)
観光・防災 WiFi 環境の整備カ所数	2 カ所 (平成 26 年度)	7 カ所 (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・観光推進事業
- ・観光・防災 WiFi 環境の整備
- ・観光施設のアクセス道路の整備

④ 空き家対策施策

空き家の適正管理を進め、活用促進に関する総合計画を策定します。また、空き家の利活用を推進し、移住者の増加を図ります。

目標 4－施策④ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
空き家バンク成約件数（年間）	1 件 （平成 26 年度）	4 件 （計画期間平均）

〔取り組む事業〕

- ・ 空き家対策事業

⑤ 住環境整備施策

安心で快適な居住環境の創出と災害に強いまちづくりを推進するため、住宅地の基盤整備を図るとともに、自主防災組織の強化や夜間の安全確保等を促進していきます。

目標 4－施策⑤ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
地籍調査進捗率	16% （平成 26 年度）	20%以上 （平成 31 年度）
災害時の代替路線の整備路線数	—	1 路線 （平成 31 年度）
道路の狭隘区間数	15 区間 （平成 26 年度）	5 区間 （平成 31 年度）
耐震改修工事等の実施戸数、がけ地工事助成件数	耐震 2 件 がけ地 — （平成 26 年度）	耐震 5 件 がけ地 5 件 （平成 31 年度）
防犯灯の設置数	395 基 （平成 26 年度）	1,745 基 （平成 31 年度）
地区防災力の強化及び防災士の配置	44 人 （平成 26 年度）	65 人 （平成 30 年度）
町ケーブルテレビによる Lアラート災害情報提供システムの導入	—	システムの導入
林道の橋梁点検件数	—	9 件 （平成 29 年度）
ごみ処理数量（年間）	3,798 t （平成 26 年度）	3,379 t （平成 31 年度）
し尿等処理数量（年間）	2,061 キロリットル （平成 26 年度）	1,398 キロリットル （平成 31 年度）

[取り組む事業]

- ・地籍調査事業
- ・道路整備(基幹道路)
- ・道路整備(生活道路)
- ・災害に強い町づくりの推進
- ・交通安全防犯等施設整備事業
- ・消防・防災等災害対策事業
- ・町ケーブルテレビによる Lアラート災害情報提供
- ・林道の橋梁点検
- ・ごみ処理事業
- ・し尿等処理事業
- ・し尿等及び町が指定した事業系一般廃棄物及び事業系産業廃棄物の処理事業

⑥ 地域福祉推進施策

住み慣れた地域で、いきいきと安心して暮らすことができるまちづくりに向けて、地域見守り体制の強化など地域ぐるみの福祉活動の促進を図ります。

目標 4－施策⑥ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
地域福祉座談会の実施	—	27 地区 (平成 31 年度)
障がい者駐車スペースの設置	—	29 施設 (平成 29 年度)
介護予防事業に参加する高齢者数	—	600 人 (平成 29 年度)
在宅サービス利用割合（要介護 3～5）	44.2% (平成 26 年度)	50% (平成 29 年度)
認知症サポーター養成講座修了者数	802 人 (平成 26 年度)	1,600 人 (平成 29 年度)

[取り組む事業]

- ・地域福祉の推進
- ・障がい者支援事業
- ・介護予防事業
- ・在宅医療介護の充実
- ・認知症地域支援の推進

⑦ 歴史・文化整備施策

史跡整備した施設の老朽化や園地の荒廃が進んでいるため、調査結果を取りまとめ再整備を推進していきます。

目標 4－施策⑦ 重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
史跡の埋蔵文化財報告書及び保存管理活用計画書の作成による史跡の再整備	資料の収集 (平成 26 年度)	達成 (平成 31 年度)

[取り組む事業]

- ・ 史跡石動山埋蔵文化財調査報告書及び史跡の保存活用管理計画の作成

横断的プロジェクト 「基本目標の達成に向けて横断的に取り組む」

(1) ファッションのまちづくり施策 「繊維でみんなが動き出せるサイクルを作る事業」

a. デザイン資源の有効活用及び魅力商品の開発支援事業

- ・町内3箇所に分けて保存しているデザインサンプル約10万点を1箇所に集約するとともにデータベース化し、資源として活用し、国内外に販売できるよう整備する。
- ・個々の企業が有する技術を組み合わせ新たな素材の研究開発を行い、ファッションをはじめスポーツや建設資材、農業資材などへの新商品の開発支援や販路拡大のための支援を行う。
実施主体) 中能登町、中能登町商工会、F C (※)、地元企業

b. 人材確保、育成推進事業

- ・インターンシップ受け入れ等で地元企業の理解を深めるとともに社会人のあり方等、“働く”ことへの理解促進を図る。
- ・繊維に携わる人材の育成や技能向上を支援する。
- ・繊維業界の情報交換のため、各階層（若手・中間管理職・経営者等）において交流・相談サロンを開催する。
実施主体) 中能登町、F C、地元企業、県内大学、産業技術専門学校

c. 情報発信推進事業

- ・子どもや障がい者等をモデルにしたファッションショーの開催支援を行い、広く全国にファッションのまちを発信する。
- ・インターネットでの情報発信等により、繊維作りやPR、販路拡大のための人材及び技能継承希望者の確保を目指す。
実施主体) F C、中能登町商工会、中能登町

※F Cとはファイバークリエーターズの略記。地元繊維企業経営者9名で構成された組織。

重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値
学生等研修受け入れ人数	—	100人 (平成31年度)
技術者交流サロンの参加人数	—	100人 (平成31年度)
新商品の見本市への出点件数	—	5件 (平成31年度)

(2) 観光交流のまちづくり施策 「人にやさしい観光交流のまちづくり事業」

a. 観光サイン整備計画の策定事業

- ・自動車や歩行者（障がい者、外国人含む）が町内施設を周遊しやすいよう、観光サインのデザイン統一、設置を行う。
- ・戦略的プロモーション（キャッチコピー、スローガン、ロゴマーク等）の統一的なコンセプトを構築する。

実施主体) 中能登町

b. バリアフリー化対策事業

- ・高齢者や障がい者のバリアとなっている施設の調査を行い、バリアを周知するとともに取り除く対策を実施する。
- ・観光ツアーや体験ツアーを企画・開発・催行できる実施体制を整備する。

実施主体) 中能登町、NPO石川バリアフリースターセンター

c. 中能登町地域資源等情報発信事業

- ・観光地、観光施設をはじめ、飲食物販などの施設や観光交流資源、工場見学できる企業、行政施設などの地域資源のデータベースを構築する。
- ・町ホームページにて、体験交流型ツアーやバリアフリーのまちを情報発信する。

実施主体) 中能登町

d. イベント開催事業

- ・体験交流のまちづくりを象徴するトレイルラン大会を継続開催する。
- ・繊維企業の工場、歴史遺産や旧所・名跡、交流施設を結ぶなど体験交流型ツアーを造成する。
- ・廃校となった学校や古民家の活用、また民泊を推進するとともに、近隣市町の宿泊施設とも連携をして体験交流客の受け入れ態勢を整備する。

実施主体) トレイルランニング実行委員会、地元企業、中能登町

e. 特産品開発事業

- ・どぶろく特区の活用や地域の食材を使用した料理、特産品を開発し、外国人旅行者にも喜ばれる新たな食の開発支援を行い誘客に繋げる。

実施主体) 農家レストラン、JA能登わかば

重要業績評価指標 (KPI)

項目	基準値	目標値
観光施設等の来訪者数	254,317人 (平成22~26年平均)	267,000人 (平成31年)
中能登町トレイルランニング大会参加者	542人 (平成26年)	1,000人 (平成31年)